

1月13日(水曜日)

ドル/円

予想外の中国金融引き締めで円急伸

12日(火)の主な推移

NYダウ平均

10627.26ドル
(-36.73ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.7166%
(-0.1034%)

NY原油先物

80.79ドル
(-1.73ドル)

チャート: 30分足 12日(火)朝7時 ~ 13日(水)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

① 中国政府系ファンド当局者が「円は引き続き下落する見通し」「ドルは底を打った」と述べたことが報じられると、ドル/円が上昇した。

② 欧米市場序盤では、米国の金利先高観後退を背景にドルが主要通貨に対して軒並み下落。加えて、夜に中国人民銀行(中央銀行)が銀行の預金準備率を0.5%引き上げると発表し、金融引き締めの方針を示したことで、中国からの資源需要が減退するとの思惑が強まり、豪ドルなどの資源国通貨が円に対して軒並み下落。中国の金融引き締めでおなじ東アジアの通貨である円にも上昇圧力が掛り、ドル/円は13日未明にほぼ3週間ぶり安値90.72円を記録した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.30-91.65円

本日のドル/円は引き続き戻りが鈍く、下落リスクの方が高い展開となりそうだ。昨日の米長期金利の急低下が示すように、9日の米雇用統計が市場予想を下回り、米金利先高観が後退した余波が続いており、当面はドルにとって逆風となるだろう。一方、中国人民銀行による金融引き締めが為替相場に与える影響は一時的なものに留まると見られるが、この措置を受けて外国為替相場全体で円高圧力が強まっており、目先はその勢いが持続する可能性が高いと思われる。

ドルが強さを取り戻すためには、米国の経済指標が強い内容となり、再び米金利先高観が強まる必要があるが、主要な米経済指標の発表は明日14日の小売売上高まで待たなくてはならず、本日中にドルを押し上げる材料が出る可能性は少ない。ただ、日本時間14日未明に発表される米地区連銀経済報告で、景気の先行きにやや楽観的な見方が示されれば、ドルを下支えする可能性もあるだろう。ドル/円は基本的には本日中に90円の太台を割り込む可能性は少ないだろう。ただ、昨日同様、突発的な材料が出た場合は、その限りではない。

本日及び明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/13(水)	28:00	○	(米)米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
1/14(木)	8:50		(日)11月機械受注[前月比]	-4.5%	+2.0%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com